

2024（令和6）年2月4日（日曜日）に開催された外国籍県民かながわ会議（第12期・第7回）の議事録は次のとおり。

1 開会

（事務局）

- ・ 会議のルール、傍聴者、会議の録音、欠席者及び配付資料について説明した。

2 全体会議

（柳晴実委員長）

- ・ オープン会議に向けて、部会毎に議論して、提言素案の取りまとめやパワーポイントの作成を行っていただいたことに感謝する。
- ・ 本日はオープン会議前の最後の会議である。今までは個人名で提言素案を出していたが、第12期の総意としてオープン会議に出す内容ということで、本日は話ができるとういと考えている。
- ・ 本日の流れとしては、最初の30分で各部会からの状況説明、提言素案の説明とそれに対する意見を出してもらおう。各部会10分ずつ、最初の3分くらいで説明してもらって、その後、意見や提案があれば出してもらおう。
- ・ ここで議論する時間はないので、全体会議で出した意見をもとに、各意見への対応は部会別協議の中で相談してもらえればと思っている。
- ・ 部会別協議の時間は70分程度あるので、提言素案をどう修正するかについては、その時間に話し合ってもらえればと思う。
- ・ 最後に各部会の協議結果を全体で報告していただく。本日の会議はそういった流れで進めようと思うので、よろしく願いたい。
- ・ オープン会議では第12期の提言素案として発表するので、違う部会に対しても気になるところは意見を出していただきたい。
- ・ では、各部会からの説明を始めていきたい。情報部会から願います。

（ロボ ナシメント 部会長）

- ・ 四つの提言素案を三つに絞った。祁委員と私の提言素案を一つにした。
- ・ 祁委員の提言素案にあったファミリーサポートセンターは、県ではなく市町村が管理していることが判明した。「神奈川県HPの外国籍県民に対する情報提供の管理改善」の提言に、祁委員の意見を反映してまとめた。

- 一つ目がその提言で、二つ目は河委員が出したものの、三つめは岩松委員が出したものである。

(柳 晴実 委員長)

- 情報部会の提言内容について、特に他の部会の方で気になったところがあれば、意見を出していただきたい。

(金 愛蓮 委員)

- 一つ目は誰の提言、二つ目は誰の提言という言い方をしていたが、第12期の提言として報告するので、そういう言い方はしない方がよい。

(ロボ ナシメント 部会長)

- 確かにそのとおりだと思う。

(柳 晴実 委員長)

- 私の方から2点。一つはオンライン教室について、学校での日本語教育と同時並行で運用する形になっているので、両者の役割分担だったり、影響がどう出てくるのかといった部分も考慮した内容にしてはどうか。
- 学校現場からも使いやすいものとして、両者の役割がかみ合うと理想的。学校と家で勉強する内容の違いが、もう少し見えるとよいと感じた。
- もう一つは、県民会議の長年の課題だが、提言を出したら終わってしまう。提言後にどうするかが一番大事だが、その部分にあまり関われない。
- 状況の確認だけではなく、もう一步踏み込んで、提言を基に何かを変えていくときに、県民会議の委員がどう関わっていけるかという部分も含めて提言として出すかどうか、部会別協議の時間に議論していただきたい。
- そこまでの対応が難しければ状況の確認で留めるのもありだと思うが、提言後に当事者として私たちがどのように関わっていくのか、そのような機会をどう作っていくかという視点について部会で話し合ってみてほしい。

(金 愛蓮 委員)

- 発表資料の構成について、「情報-①」が二つある。最初のページが①で、次のページがまた①、その後が②、③となっている。

(事務局)

- 提言としては2ページで一つである。情報提供の管理改善について、1ページ目には現状と課題、2ページ目に提言の中身が書かれている。

(金 愛蓮 委員)

- ・ ページ毎にタイトルを変えるなどした方が、初めて聞く人は分かりやすい。

(柳 晴実 委員長)

- ・ パワーポイントの作り方の部分になるため、他の部会も含めて整理する。

(韓 昌熹 委員)

- ・ 「情報①」について、管理改善をするためには検証が必要である。検証結果に基づいて、どう具体的に改善するかを示した方がよい。
- ・ 現状は方向性だけを示しているが、どのように検証して、誰にとって分かりやすくするのかという点を具体的に提案するべきだと思う。
- ・ 「情報②」についても、組織としての制度かプロセスとしての制度か、もう少し具体的に示した方がよいと思った。

(柳 晴実 委員長)

- ・ 次は、次世代・教育部会にお願いしたい。本日は肖部会長が不在なので、兪副委員長から説明をお願いしたい。

(兪 大達 副委員長)

- ・ 県立高等学校で国際理解クラブ活動推進のモデル事業をして、その事業を通じてグローバル社会を深く理解し、ともに生きる社会をつくる人材育成を推進していきたいと考えている。
- ・ 背景と目的をきちんと説明してから、国際理解教育の重要性を訴えたい。詳しい内容は書いてあるとおりが、最も重要なのは計画の方向性について短期的、中期的、長期的に分けて考えていくという点。
- ・ 予想される課題についても記載したが、皆さんから御意見があれば、その内容も踏まえて修正していきたい。

(柳 晴実 委員長)

- ・ 次世代・教育部会の提言内容について、御意見があればお願いしたい。

(兪 大達 副委員長)

- ・ 一点補足する。情報部会の「小学生、中学生向けの日本語のオンライン教室」と重複しているように見えるが、対象と形式に注目してほしい。
- ・ 情報部会の提言の実施形式はオンラインだが、次世代・教育部会の提言は対面で国際理解を深めたいと考えている。

りゅ ちょんしる いいんちょう
(柳 晴実 委員長)

- 2点伝えたい。提言なので、一般的な名称を使わなければいけないわけではないが、「国際理解」という言葉を使用したことについて、何らかの意図があるかどうか。最近では「多文化共生」という表現を使うことが多い。
- 「国際理解」は、違う国の文化を理解するという意味。「多文化共生」は、お互いを理解したうえで、一緒に生きていくためにどうすればよいか考えることを含む。言葉の使い方について、部会の中で整理してほしい。
- また、外国籍県民の若年層にポイントを置いていて、そこはもちろん大事だが、継続性の観点も含めると若い世代だけでは対応しきれない部分があると思う。今の書き方だと若年層限定に見えるので、例えば「若年層を中心とした」という表現にするなど、部会の中で議論してもらいたい。
- 続いて、社会福祉部会の話に進みたい。

(リディア ワンタ 部会長)

- 外国籍の保護者と子どものための教育支援、外国籍県民の高齢化に向き合う支援、支援ボランティアのための支援という三つにまとめた。
- 定住外国人と長く共生していくためのプロセスの設計、外国籍県民の高齢化に目を向け、介護難民を作らない政策、ボランティアが保護され、力を伸ばせる施策を要請する。
- 一つ目の教育支援については、様々な理由で来日し日本に定住する外国人の日本語支援やサポート体制を整備してほしい。発達障害と分類される外国人の児童、生徒の実態調査及び支援の行方を調査してほしい。
- 二つ目の高齢者支援では、外国人介護士労働センターの設立、多文化ケアマネジャーセンター制度の導入、外国人高齢者の集いの場作りを提案する。
- 三つ目のボランティア支援は、MIC かながわの医療通訳ボランティア向けの心理カウンセリング研修会の開催、かながわ外国人専用相談窓口へのChatGPT の設置、日本語支援や母国話者支援の専門家のための報酬体系の見直しを提案している。

りゅ ちょんしる いいんちょう
(柳 晴実 委員長)

- 社会福祉部会の提言内容について、御意見があればお願いしたい。

ほん ちゃんひ いいん
(韓 昌熹 委員)

- 「発達障害と分類される児童」とは、発達障害の児童ということか。

(リディア ワンタ 部長)

- ・ そうである。

(韓 昌熹 委員)

- ・ 外国籍の子どもの中で、発達障害を持っている子どもがどれくらいいるかという実態調査が必要ということか。

(金 愛蓮 委員)

- ・ 「発達障害と分類される」という意味は、発達障害の子どもではなく、その子が本当に発達障害なのか、日本語が分からなくて多動性を見せるかが曖昧なまま、教室では先生が手一杯なため、支援学級に送って勉強させるケースが増えているため、そこを明確にしたいという趣旨である。

(韓 昌熹 委員)

- ・ それが分かるように、もう少し具体的に書いた方がよいと思う。
- ・ また、実態調査の主体を誰が担うべきかも考えておいた方がよい。専門家なのか、教育委員会なのか、伝えた方がよい。
- ・ 外国人介護士労働センターというのは、介護労働している人たちのセンターということでよいか。

(リディア ワンタ 部長)

- ・ そうである。

(韓 昌熹 委員)

- ・ ケアマネジャー制度や高齢者の集いの場作りなど、それぞれが重い制度である。どれかにフォーカスして絞るかどうかが、議論した方がよいと思う。
- ・ また、Chat GPTは固有のツールであり、そこにこだわる必要はないと思うので、AIという言葉に書き換えるか検討していただきたい。

(金 愛蓮 委員)

- ・ 行政は縦割りで横のつながりがないと言うが、私たちもつながりがない。情報部会は子ども向けの日本語のオンライン教室、次世代・教育部会は国際理解クラブ活動における日本語教育、社会部会にも子どものための教育支援といった内容がある。
- ・ 私たちが横のつながりを持って、教育支援として一つにまとめて発表するなど、調整が必要だと感じた。

りゅ ちよんしる いいんちやう
(柳 晴実 委員長)

- ・ オープン会議が2月25日に迫っている。現時点の資料は提言の完成版ではないので、金委員が指摘した重複する部分については、オープン会議でいろいろな意見をいただいた後で、整理していければよいと思う。
- ・ 私から全体に対する意見として、「外国籍県民」「外国人」「外国につながる人」など、いろいろな表現が混在している。
- ・ 例えば「外国籍県民」とした場合、外国籍を持つ県民に限定される。日本国籍を持つ人たちも含めて話をしたいときは、「外国につながる人」とするなど、提言の中で対象とする範囲を意識して、適切な言葉を選択していただきたい。
- ・ その点について、部会の中で意見交換してほしい。

いひん
(ハリロバ ナタリア 委員)

- ・ 先ほど韓委員が Chat GPT にこだわる必要がないと言ったが、他にお勧めの AI はあるか。県内では横須賀市が Chat GPT を使用している。

はん ちゃんひ いひん
(韓 昌熹 委員)

- ・ 他の特定のツールをお勧めするという類のものではなく、いろいろな種類の技術があるため、AI技術を使用すると書いた方がよいのではないかと考えている。

いひん
(レ ダンコア 委員)

- ・ Chat GPT の活用については、具体的にどのような情報を提供するのか、どのような機能に役立つのか、もう少し明確にした方がよいかもしれない。

りゅ ちよんしる いいんちやう
(柳 晴実 委員長)

- ・ 今出た意見をもとに、各部会で議論をしていただきたい。

3 部会別協議

<情報部会>

ぶかいちやう
(ロボ ナシメント 部会長)

- ・ まず「情報-①」について話したい。
- ・ 柳委員長から、対象が誰なのかを整理してほしいという話があった。日本国籍でも日本語が分からない人もいるため、タイトルの「外国籍県民」を「日本語が分からない人」に変えてはどうか。

(^き ^{せい} ^{いいん}
祈 静 委員)

- ・ 「^{がいこく}外国」という^{ことば}言葉は残したいので、「^{がいこく}外国^{かた}につながりのある方」としてはどうか。^{がいこく}外国籍であれば^{しえん}支援の^{たいしょう}対象になるが、^{にほんこく}日本国籍で^{にほんご}日本語が分からない方は、^{かた}支援の^{しえん}対象から^{はず}外れてしまう場合もある。そのため、「^{がいこく}外国籍^{けんみん}県民（^{がいこく}外国^{かた}につながりのある方）」という^{ひょうげん}表現がよいのではないかと。

(^は ^{さんう} ^{いいん}
河 相宇 委員)

- ・ ^{かわさき}川崎市では「^{がいこくじん}外国人」としており、やさしい^{にほんご}日本語で^{がいこくじん}外国人向けのページがある。

(^き ^{せい} ^{いいん}
祈 静 委員)

- ・ やさしい^{にほんご}日本語もよいが、^{かんじ}漢字の方が^わ分かりやすい^{ひと}人もいる。

(^{いわまつ} ^{さゆみ} ^{ふくいんちやう}
岩松 佐由美 副委員長)

- ・ ^{すこ}少し長いですが、「^{がいこく}外国籍^{けんみん}県民・^{がいこく}外国^{かた}に^{かた}ルーツのある方々」としたらどうか。

(^き ^{せい} ^{いいん}
祈 静 委員)

- ・ ^{がいこく}外国籍^{けんみん}県民（※）として、その^{した}下の^{ぶんしょう}文章で「※^{がいこく}外国^{かた}に^{かた}ルーツがある方を含む」といった^{ほそく}補足説明をしたらどうか。

(^は ^{さんう} ^{いいん}
河 相宇 委員)

- ・ ^かそこまで^{たいしょう}対象の^か書き方に^{ひつよう}こだわる必要はないと思う。「^{がいこく}外国籍^{けんみん}県民」と^か書いてあっても、^{した}下の^{ぶんしょう}文章を^よ読めば、^{がいこく}外国籍^{けんみん}県民だけが^{たいしょう}対象でないことは^わ分かる。^{ほか}他の^{ぶかい}部会も含め、^{ぜんたい}全体的に^{そろ}揃えていく^{はなし}話だと思おう。
- ・ ^{かながわけん}神奈川県と^{よこはまし}横浜市の^{ちが}ホームページの^{ちが}違いを見せられると^わ分かりやすい。

(^き ^{せい} ^{いいん}
祈 静 委員)

- ・ ^{しりよう}資料を^つ付けられれば^{ちが}違いを^{せつめい}説明しやすく、^{さんかしや}参加者も^わ分かりやすいと思う。

(^{ロボ} ナシメント ^{ぶかいちやう}
部会長)

- ・ それぞれの^{くわ}ホームページの^{ちが}スクリーンショットを^わ加えれば、^{ちが}違いが^わ分かりやすいので、^いパワーポイントに入れるようにしたい。
- ・ ^{みつ}三つの^{かじやう}箇条書きの^{せつめいぶん}説明文は^{なが}長すぎないかと。

(^は ^{さんう} ^{いいん}
河 相宇 委員)

- ・ ^{にばんめ}二番目の^{ないやう}内容を一番上^{いちばんうえ}に^も持ってきた方が^{ほう}よいのではないかと。

(ロボ ナシメント 部長)

- 二番目の内容を一番上にし、一番目と三番目の内容を統合する。横浜市の例は次のページに持っていきたい。

(祁 静 委員)

- 既に多言語で色々な情報は発信されているので、まずはライフシーンを整え、既存の多言語情報をうまく活用できるようにするのがよい。

(ロボ ナシメント 部長)

- 全体的にどういう目的があり、どういう課題があるかを議論し、それらを考慮したうえで、利用者が簡単かつ効率的に操作できる機能や情報を組み合わせることが必要である。私たちは、総合的にどのような情報が必要かを伝え、どのように対応するかは県に委ねる。
- 祁委員の提案どおり、コンテンツメニューに「外国籍県民」という項目を追加することもよいと思う。このような機能があれば助かるというイメージを提言すればよいと思う。
- 次に、「情報-②」について話し合いたい。

(祁 静 委員)

- 外国人の意見の確認方法として、例えば目安箱のようなものを作り、そこに意見を入れてもらうということも考えられる。

(岩松 佐由美 副委員長)

- 「会議のメンバー以外の外国人」とあるが、外国につながるのある方も対象になるのか。

(河 相宇 委員)

- 対象になる。

(祁 静 委員)

- 目安箱のようなものに入れるのであれば、その方が外国籍を持っているかどうかは分からないので、広く考えてよいと思う。

(事務局)

- 全体会議で意見のあったことに関する確認だが、「制度」というのは組織なのか、プロセスなのか、想定しているものを教えてほしい。

(河 相宇 委員)

- ・ 提言後、県の担当部署がどのくらいの時期にどのような検討をしていくかというプロセスを作るということである。

(ロボ ナシメント 部会長)

- ・ 次に、「情報-③」について話したい。

(岩松 佐由美 副委員長)

- ・ 全体会議で柳委員長から意見があった、学校と家のそれぞれで学ぶイメージだが、小学生や中学生は、学校の勉強がメインであり、家で同じ内容をオンラインで学べるようにする想定である。文章を少し修正したい。

(河 相宇 委員)

- ・ 学校で開かれる国際教室というのはどのようなものか。

(岩松 佐由美 副委員長)

- ・ 学校の中に国際教室というものがあり、日本語の授業では理解が難しい場合、例えば国語の授業を取り出して教えたりしている。

(祁 静 委員)

- ・ 全部の学校にあるわけではない。

(岩松 佐由美 副委員長)

- ・ 記載内容について、何か修正が必要な点はあるか。

(祁 静 委員)

- ・ 「学習支援」という言葉をどこかに入れた方がよいのではないかと。

(岩松 佐由美 副委員長)

- ・ どこに入れるか考えてみる。

<次世代・教育部会>

(韓 昌熹 委員)

- ・ 1 ページ目について、クラブ活動の「推進」と「促進」どちらがよいか。クラブ活動は高校生が自主的に取り組むものであり、それを「推進」するか、取組を促すという意味で「促進」するのか。あと「支援」もあると思う。
- ・ 【背景・目的】の「たくさんの外国につながる」という言葉の前に、

「多文化社会を迎え学校現場でも」という言葉を付け加えたほうがよい。

- また、委員長から話があった「外国籍県民の若年層」という表現は、若い人たちの活躍の場として考えているためだが、そのまま行くか、修正するか検討した方がよい。

(兪 大達 副委員長)

- 「若年層」という言葉を無くすということか。

(韓 昌燾 委員)

- 「外国籍県民の若年層」を、他の言葉に替えたほうがよい気がする。
- 【企画概要】の「対象：外国につながる生徒、日本人生徒」は、「生徒」でよいと思う。
- 「運営の担い手」については、担い手という手伝う側になるため、関連団体とか関係組織といった言葉の方がよい。事前に説明しておかないといけない組織、といった意味合いで言葉を柔らかくした方がよい。
- 「内容」は、多文化共生の前に「国際理解」を入れた方がよい。
- 【予想される課題】については、課題の重要度があるため、一番上に記載されているものは三番目で、二番目を一番、三番目を二番にした方がよい。
- 「神奈川県国際課と教育委員会の連携」については、その前に「制度の継続性を考えて」という理由を追記した方がよい。

(レ ダンコア 委員)

- 「国際理解クラブ」という名前についてはどうか。

(韓 昌燾 委員)

- 国は多文化共生社会を目指している。その前段階として、まずはお互いの理解が必要になる。お互いの理解について、教育現場では「多文化共生」より「国際理解」の方が必要なものだと思う。

(レ ダンコア 委員)

- 「多文化理解」はどうか。「国際理解」は、日本以外の国に対する理解という考え方であると思う。

(韓 昌燾 委員)

- 日本の状況として、外国に対して閉鎖的な雰囲気がある。まず外国に関心を持って、国際的な理解を深めることが教育現場で一番大事だと思う。

- ・ 「多文化」は、いろいろなものの関係性を含めて考えないといけないが、順番として、個々に対する理解を深めた後で関係性を考えていくという、段階があるのではないかと思っている。
- ・ 今は初期段階なので、最初のステップとしては「国際理解」としたうえで、次のステップとして「多文化共生」について考えるクラブがあってもよい。

(レ ダンコア 委員)

- ・ 「国際理解」だと、外国につながる学生にとっては日本の状況ではなく、国際的な状況や、日本と他の国とのつながりといった内容に偏るのではないかと思った。
- ・ 日本で生活している人々、それぞれの外国人コミュニティがお互いにサポートして認め合うといった目的とは違ってくる。

(韓 昌燾 委員)

- ・ この提言に関しては、そういった目的は置いていない。

(兪 大達 副委員長)

- ・ ここでは「多文化共生」というより「国際理解」だと思う。
- ・ 先ほど委員長から話があったように、「国際理解」は日本人の立場から、海外について理解することである。
- ・ 「多文化共生」は、外国から日本にたくさん人が来て、その中でいろいろな文化の衝突が発生するが、皆で共生していこうという考え方である。
- ・ 先ほどの「推進」と「促進」の問題についても、「促進」と言った場合に、誰が主体で実施するのか。「推進」は推して進めることだが、こちらから推さないに進まないということになる。

(韓 昌燾 委員)

- ・ 実際はそういう状況になると思うが、表現は「支援」くらいがよい。

(兪 大達 副委員長)

- ・ 促すことで進めてほしい。こちらから力強く推すわけではないという意味では、「促進」の方がよいと思う。

(韓 昌燾 委員)

- ・ 取組自体があれば「促進」となる。取組がなくて、こうしてほしいというものは「推進」になる。「支援」は若干「上から目線」という印象がある。

- ・ 高校の中で国際関係のクラブがどれだけあるのか、現状を把握していないため、「支援」か「促進」どちらの言葉を選ぶかは難しいところである。

(蔣 香梅 委員)

- ・ 「多文化共生」と「国際理解」の両方を入れてもよいのではないか。

(韓 昌熹 委員)

- ・ その国を理解することと、その国の人と一緒にくらす社会をつくることは、次元が違ふと思う。

(蔣 香梅 委員)

- ・ 対象として、外国につながる生徒と日本人生徒の両方が入っているため、多文化の意味もあると思う。

(韓 昌熹 委員)

- ・ 両者を分ける必要がなく、単純に「生徒」とした方がよい。学生たちの自主的な取組に、多文化共生の概念を押し付ける必要はないのではないか。

(レ ダンコア 委員)

- ・ 対象として、教員はどうか。

(韓 昌熹 委員)

- ・ クラブ活動なので、担当教員はいると思う。

(兪 大達 副委員長)

- ・ 活動の輪の中にいるのか、外にいるのか。教員は外にいた方がよい。

(レ ダンコア 委員)

- ・ 教員の仕事量が増えると思う。そうすると少し大変になる。

(蔣 香梅 委員)

- ・ 「生徒」でよいか。「児童」という表現はどうか。

(韓 昌熹 委員)

- ・ 高校生は「児童」とは言わないのではないか。

(レ ダンコア 委員)

- ・ 18歳まで「児童」とする定義もある。

(韓 昌燾 委員)

- ・ 高校生がターゲットなので、「学生」の方が分かりやすい。

(レ ダンコア 委員)

- ・ 「県内の高校生」としてはどうか。

(韓 昌燾 委員)

- ・ 場所として「神奈川県内高等学校」と書いてあるため、「高校生」でよいのではないか。

(蔣 香梅 委員)

- ・ 先ほどの話に戻るが、「国際理解教育」でよいか。

(レ ダンコア 委員)

- ・ 【企画概要】には多文化共生、日本語教育、母語・母文化教育という記載がある。「国際理解」は、外交官を育成するような未来をイメージする。
- ・ この活動の目的として、今後日本で就職して生活していくために、そのアプローチとして海外なのか、日本の中の各コミュニティを深く理解するか、そのことを明確にするような話し合いをした方がよいのではないか。

(韓 昌燾 委員)

- ・ 国内にある外国人のコミュニティを深く理解する必要があるか。

(レ ダンコア 委員)

- ・ あると思う。例えば、ベトナム人コミュニティ、ネパール人コミュニティ、中国人コミュニティ等について理解した方がよいと思う。

(韓 昌燾 委員)

- ・ ベトナムや中国という国のことではなく、そのコミュニティについて理解しないといけないか。

(レ ダンコア 委員)

- ・ これまでは別々の島という感じである。そのような活動を通じて、自分のコミュニティだけではなく、他のコミュニティの存在を分かるようにした方がよいと思う。
- ・ 子どもたちに、自分のコミュニティ以外にも他のコミュニティが存在していて、お互いが平等に日本で生活していることを周知した方がよいと思う。

ほん ちゃんび いいん
(韓 昌燾 委員)

- ・ 話がぶれている気がする。この提言のターゲットは学生である。その子が外国人か、外国人でないかは関係ない。

(レ ダンコア 委員)

- ・ 私が話をしているのは対象ではなく、具体的にどのような知識を学生に伝えるのか。この活動で子どもたちが何を身につけるのかである。

ほん ちゃんび いいん
(韓 昌燾 委員)

- ・ それは違う。この制度は、学生が自分たちでやりたいときにやれるようにしようという話で、こういう情報を与えてこれを理解してほしいということではない。それだと偏ってしまう。

しょう こうめい いいん
(蒋 香梅 委員)

- ・ ベトナムのコミュニティはこうである、中国はこうであるということをお互いに理解したり情報提供したいという意味だと思う。

ゆう だいたつ ふくいんちやう
(兪 大達 副委員長)

- ・ 言っていることは分かる。理想像として、韓国人、ベトナム人、中国人、日本人、お互いの実情を理解してほしいということだと思う。ただ、韓委員が話しているのは、実現したいと考えている制度の話である。
- ・ 私の子も学校に通っていて、イギリス人、アメリカ人、ベトナム人、ミャンマー人、中国人、日本人皆が参加する、国際理解という授業がある。
- ・ そこで、例えば中華街に行けば中国人のコミュニティがあると紹介しているが、そういう話も教育の中に組み込んでほしいという意味だと思う。
- ・ 【背景・目的】には確かに「外国人コミュニティ、支援団体同士が互いに支え合うと期待する」と書かれているが、副次的な話だと思う。

(レ ダンコア 委員)

- ・ 「外国籍県民」というところは、「外国につながる」など、別の言い方に変えた方がよいと思う。

ほん ちゃんび いいん
(韓 昌燾 委員)

- ・ これは神奈川県が使用している言葉だから、このままでよいのではないか。川崎市は外国人市民代表者会議という名前だが、神奈川県の場合、国籍の要件があり、外国とつながりがある日本人は委員になれないのではないか。

じむきょく
(事務局)

- 委員にはなれない。

はん ちゃんひ いいん
(韓 昌燾 委員)

- そうであれば、「外国籍県民」でよいのではないか。

じむきょく
(事務局)

- ただ、外国籍県民かながわ会議では、外国につながるのある方々のことも含めて提言してきている。

はん ちゃんひ いいん
(韓 昌燾 委員)

- 「外国人」でも「外国につながるがある人」でもよいが、会議の制度上、提言するものなので、外国籍県民という言葉で統一しておけばよいと思う。そこまで細かくは分けられない。

じむきょく
(事務局)

- 県では「外国籍県民等」という言葉を使う。いろいろな背景の方がおり、一つひとつ説明するのは難しいため、「等」で表現している。

はん ちゃんひ いいん
(韓 昌燾 委員)

- 「外国籍県民等、特に若年層におけるポテンシャルを発見するため。」
でどうか。

- 制度を進めるときは、ターゲット層を絞って、その次にどうするかという話になる。今回は、若年層に特化してその人たちがポテンシャルを発揮する、若年層が活躍できる仕組みを作りたい。
- 【計画・方向性】の「短期的」の部分で、「教育委員会、神奈川県内の外国につながる生徒が多い」というところが、何を言いたいのか分からない。

じむきょく
(事務局)

- 教育委員会だけではなく、高校にも打診するという意味だと思う。

はん ちゃんひ いいん
(韓 昌燾 委員)

- 「推進」「促進」「支援」は、どれがよいか。

じむきょく
(事務局)

- 「国際理解クラブ活動を促進するモデル事業」とした方が伝わりやすい。「推進」はおっしゃるとおり、既存のものを発展させるイメージである。

- 活動を促すため県が支援するという意味なので、「促進」がよいと思う。

(韓 昌燾 委員)

- 「運営の担い手」は、何の運営の担い手を意味するか。モデル事業なので、クラブ活動の運営の話ではなく、促進する事業体の話になるか。

(事務局)

- 場所と対象が記載してあれば、この部分は不要ではないか。

(韓 昌燾 委員)

- メインはその部分である。こういう考えを持って実施してほしいということが、事業の中にも書いてある。

(兪 大達 副委員長)

- 場所、対象と内容でよいと思う。

(韓 昌燾 委員)

- 「コミュニティや外国籍県民～」という部分の記載はどうするか。

(蔣 香梅 委員)

- 「若年層におけるポテンシャルを生かせる」でよいのではないか。

(韓 昌燾 委員)

- 「外国籍県民が活動できる場として」といった表現でどうか。

(事務局)

- 元々は留学生を講師にするという話をしていた。「外国籍県民等が活躍できる場を提供することで講師の育成にもつながる」という感じにすると、前の方にもつながってくる。

(韓 昌燾 委員)

- 「活躍できる場づくりにもつながる」で終わりでよいのではないか。
- 上の文章と分けた方がよい。上は学生たちが行うもので、ここは人材が活躍できる場の提供にもなるという話であり、二つの話が混ざっている。
- 「学生が国際理解、多文化理解、日本語教育、母語・母文化教育を行う」という感じで、ここはたくさんのメニューがあつてよい気がする。
- 先ほど話に出た、外国人コミュニティの理解があつてもよいと思う。

じむきょく
(事務局)

- ・ 学校によっていろいろなものがあると思う。

はん ちゃんひ いいん
(韓 昌熹 委員)

- ・ 学生たちが興味があるものが最優先になる。

じむきょく
(事務局)

- ・ レダンコア委員の思いを汲み取るなら、「ともに生きる」社会ではなく、「多文化共生」という言葉に変えてしまう方法もある。

はん ちゃんひ いいん
(韓 昌熹 委員)

- ・ 「多文化共生社会」より、「ともに生きる社会」の方が幅が広い。これは神奈川県かながわけんの会議かいぎなので、「多文化共生」でもよいと思う。
- ・ 最初の部分から再度、考えをすり合わせたい。タイトルは「神奈川県立高等学校における国際理解クラブ活動を促進するモデル事業」とする。
- ・ 【背景・目的】で「学校：たくさんの外国につながる生徒が学校に通っている状況の中で～」とあるが、これは現状把握である。「学校」「外国籍県民」「関係団体」という文言がすべていらぬのではないか。
- ・ 国際理解教育の重要性が高まっていることも、ポテンシャルを発見する場づくりが必要なのも、背景である。関連団体の部分だけ目的になっている。

ゆう だいたつ ふくいんちよう
(兪 大達 副委員長)

- ・ ここを「関係団体」ではなく「目的」にすればよいか。

はん ちゃんひ いいん
(韓 昌熹 委員)

- ・ 事業目的は、学生たちが多文化理解の活動ができる教育現場を作りたいということである。「横のつながりを作りたい」という話とは全然違う。

じむきょく
(事務局)

- ・ 「支え合う場が必要」や「支え合えていない」などの文に変えた方がよいということだと思ふ。難しい言葉で言うなら「関係が希薄」など。

はん ちゃんひ いいん
(韓 昌熹 委員)

- ・ やはり目的を明確に書かないと駄目である。
- ・ 目的は「グローバル社会を深く理解し、ともに生きる地域社会をつくる人材育成のために、国際理解クラブ活動を促進する。」でよいのではないか。

- ・ 冒頭ぼうとうに書かれた文章ぶんしょうが内容ないようのようになっているが、これが目的もくてきである。

(兪 大達 副委員長)

- ・ 先に主張しゅちようを述べてから背景はいけいを説明するか、背景はいけいを先に説明するかは、プレゼンテーションししかたの仕方次第しだいなのでどちらでもよい。

(レ ダンコア 委員)

- ・ 背景はいけいとして二つのポイントがある。三番目さんばんめのポイントも背景はいけいと言える。

(韓 昌熹 委員)

- ・ 背景はいけいであれば、少し文章ぶんしょうを変えないといけない。

(事務局)

- ・ 韓委員はんいんの文章ぶんしょうの感じかんじでよいと思う。

(兪 大達 副委員長)

- ・ 「支え合う状況じょうきやうになっていないため、横よこのつながりつなりを作る必要がある。」

(韓 昌熹 委員)

- ・ 次のページは、「母文化教育ぼぶんかきやういく」のあとあとに「など」ついかを追加する。

(蔣 香梅 委員)

- ・ 「行おこなう」は不要ふようではないか。

(韓 昌熹 委員)

- ・ 我々われわれが行おこなうわけではないので、不要ふようである。

(事務局)

- ・ ①、②などに分けた方がよいかもしれない。

(韓 昌熹 委員)

- ・ ①で学生がくせいの活動かつどうとして想定そうていされるものを列挙れっきよするというイメージである。
- ・ それを支えるためのものとして、「外国人がいこくじんコミュニティや外国籍がいこくせきけん県民等けんみんとうが活躍かつやくできる場ばづくりにもつながる」という部分ぶぶんが②になる。
- ・ 【計画・方向性けいかく ほうこうせい】は変更へんこうしない。
- ・ 【予想よそうされる課題かだい】は順番じゅんばんを入れ替かえる。三つ目みつめの前に「制度せいどの継続性けいぞくせいを考えかんがえ」という文言もんごんを入れる。「神奈川かながわ県国際課けんこくさいかと教育委員会きやういくいんかいの連携れんけいを図はかる」くらいでよいと思う。

- ・ 「ともに生きる社会」を「多文化共生社会」に変えるかどうかは、部会長の判断に任せたい。

(事務局)

- ・ ここに「ともに生きる」と書いてあるので、合っていてよいかもしれない。

(レダンコア委員)

- ・ オープン会議まで残り約3週間である。そこに向けて一人ひとりに宿題を出した方がよいのではないかと。例えばもう1回、自分のアイデアを明確に整理して、当日相談できるようにするなど。

(兪大達副委員長)

- ・ 各自何か意見があれば、LINEグループで共有してもよい。本日は部会長が不在なので、部会長からも何か意見が出るかもしれない。

(韓昌燾委員)

- ・ オープン会議に、外部の人はどれくらい参加するのか。

(事務局)

- ・ 期によって異なる。5～6名から10数名まで。

(韓昌燾委員)

- ・ そうであれば、結構密な意見交換が行われていたのか。

(事務局)

- ・ 興味のある方が参加するので、結構意見は出ていると思う。

(韓昌燾委員)

- ・ 熱い人が来れば、意見は熱くなる。それだとよい。意見交換したいと言っても何も意見がなかったら、それはそれで悲しい。

(事務局)

- ・ 本当は県民センターで実施できればよかったが、今回は本郷台なので、アクセスしづらい方もいると思う。可能な限り広報を強化している。
- ・ 先日も県の広報紙「県のたより」を見た方から申込みがあった。委員の皆様も宣伝していただけるとありがたい。

＜社会福祉部会＞

(リディア ワンタ 部会長)

- 資料2の5ページを見てほしい。タイトルに「外国籍保護者」と書いたが、「外国につながる児童生徒のための支援」という趣旨なので、修正したい。

(鈴木 クリスティーナ 委員)

- そのタイトルでよいと思う。

(柳 晴実 委員長)

- 外国籍だけではなく、外国につながりを持っていて、問題を抱えている人たち全体が対象になると思う。

(金 愛蓮 委員)

- 日本に長く住み、国籍を変えたとしても家で孤立して高齢者になっている人もいるかもしれないため、高齢化の提言も表現を変えた方がよい。

(柳 晴実 委員長)

- 対象については、表現を統一することにする。

(鈴木 クリスティーナ 委員)

- 発達障害の実態調査は、どの団体にお問い合わせするという想定はあるか。

(金 愛蓮 委員)

- 各市の教育委員会は、公開していないだけで、その子が発達障害かどうか、支援が必要かどうかという実態は把握しているのではないか。

(リディア ワンタ 部会長)

- その情報を公開するよう、市町村にお問い合わせということ。

(柳 晴実 委員長)

- 県から各自治体の教育委員会にお問い合わせしてもらわないといけない。
- 韓委員の意見を聞いて、どのような実態調査を行ってほしいか、具体例を入れた方がよいと思った。
- 現状を踏まえて、子どもたちが発達障害かどうかに関する実態調査がきちんとされているのかどうか、こういうことを調査してほしいという具体例をいくつか入れるとわかりやすくなる。
- 調査する段階での調査方法についても、入れておいた方がよい。

(リディア ワンタ 部長)

- 発達障害にも言葉の障害、学習障害、精神障害などの分類がある。そのような調査を、県から教育委員会にお願いした方がよいのではないかと。

(柳 晴実 委員長)

- 発達障害とされる子どもを分類している基準を知りたいということか。

(リディア ワンタ 部長)

- 基準ではなく、学校側で判断される発達障害の分類である。

(ハリロバ ナタリア 委員)

- 発達障害の種類が何であるかは関係なく、子どもは学校で同じクラスに入れられてしまう。種類別の人数が分かるとよいと思う。

(金 愛蓮 委員)

- 実態調査をして、その結果を学校の中でどのように生かすのか。

(ハリロバ ナタリア 委員)

- 情報があれば、そこから何ができるかを考える材料になる。

(柳 晴実 委員長)

- 現状は本当に発達障害かどうか曖昧な状態なので、その子にとって適切な場所で必要な教育支援を受けられているかという点が問題である。
- 実態調査できちんと現状を把握できれば、その子にとって一番よい教育支援にたどり着くきっかけになる。

(ハリロバ ナタリア 委員)

- ロシア人の母子家庭の通訳をしたことがある。母親は努力して、一所懸命子どもの発達を助けようとしているが、学校では状況が異なる子どもが一つのクラスに入れられて、授業参観でその様子を見てショックを受けた。
- 母親としては、隣に座っている子どもの障害の程度が重いため、自分の子どもの発達が阻害されている気がするという相談を受けたことがある。

(柳 晴実 委員長)

- 具体的な調査内容と実施による効果を追記する。もともと保護者への説明も記載してあったが、そういう内容を入れてもよいと思う。

(リディア ワンタ 部長)

- 保護者が発達障害に関する説明を理解できないことも多い。

(柳 晴実 委員長)

- 保護者の受け止め方は、日本人でも外国人でも難しい。外国人の保護者は発達障害とは何かを知らないことが多いので、専門家による意見も大事だが、学校側が保護者にどのような説明をするかが入口になると思う。

(金 愛蓮 委員)

- 全体会議で、(1)の外国人介護士労働センターと(2)多文化ケアマネジャーの提言をまとめた方がよいのではないかという意見があった。鈴木委員は、介護士とケアマネジャーの違いが分かるか。

(鈴木 クリスチーナ 委員)

- 介護士は現場で働く人で、ケアマネジャーはプランを作る人である。介護士は今一番足りない分野である。
- 外国人介護士労働センターの登録者は、介護士として働く方なのか、ボランティアなのか。お金をださないと、非常に大変だと思う。ある施設で働く方が、違う施設に支援に行くことが許されるのかもよく分からない。

(金 愛蓮 委員)

- そこをもう少し柔軟にしたい。例えば、ある施設に韓国語を話す利用者が入居した場合、外国人介護士労働センターに登録した人に来てもらって、ケアしてもらおうシステムを作るイメージである。
- こうした仕組みがあれば、介護士同士で情報共有や悩みの相談もできてよいのではないかと思う。
- ケアマネジャーになるための道のりは険しく、なかなか担い手がないが、外国人のケアマネジャーを育成して増やすことができれば、外国人介護士労働センターもうまく機能するのではないかと思う。

(鈴木 クリスチーナ 委員)

- 介護施設を支援するものなのか、それとも外国籍の方を支援するののか。
- 先日参加した研修で、今は人生100歳時代だが、外国人は一人だし、言葉も分からないし、年を取るのが怖いという話を聞いた。外国人高齢者を支援するうえで言葉の問題は大きいので、言語面の支援は必要だと思う。

(金 愛蓮 委員)

- 中国人の高齢者が、中国人の介護士が多い介護施設に入っていたとして、そこがつぶれてしまったら終わりである。
- 外国人介護士が登録するセンターがあって、登録された介護士が各施設に自由に行ける仕組みがあったら、もう少し介護の問題が解消できると思う。

(ハリロバ ナタリア 委員)

- 例えば施設利用者が大事な検査結果を聞く日があって、一時的に外国人の介護士が近くにいたら、通訳できるので助かると思う。

(金 愛蓮 委員)

- そういう対応を柔軟にできるようになるとよい。

(ハリロバ ナタリア 委員)

- 難しいと思うがやってみた方がよい。失敗してもよいから、そういうことを実現したいという意見を出せば、何かが動くかもしれない。

(金 愛蓮 委員)

- 外国人でも 100歳まで生きる人が出てくるかもしれない。今スタートしたら、次の人たちがアイデアを固めて、10年後は何かできるかもしれない。

(柳 晴実 委員長)

- センターとなると話が大きくなるが、そういう役割を担うコーディネーターを配置して、その人にいろいろな情報が入り、相談に乗ったり、介護士の紹介や派遣ができる仕組みが作るような方法もあるのではないかな。

(ハリロバ ナタリア 委員)

- 県や国ではできなくても、民間企業で対応できる場所が出てくるかもしれない。

(柳 晴実 委員長)

- 情報が集まって、アドバイスをしたうえで、それに対して施設がどう取り組むかということもあると思う。

(金 愛蓮 委員)

- タイトルを「外国人介護士コーディネーター制度導入」といった形に変えると、中身は変わらなくても、難易度が下がるのではないかな。

りゆ ちょんしる いいんちょう
(柳 晴実 委員長)

- ・ ケアマネジャーは、本人や家族にヒアリングをして、この人に必要な介護は何かというプランを立てる。そのプランに基づいて本人と直接やりとりをするのが介護士である。

きむ えよん いいん
(金 愛蓮 委員)

- ・ 二番目の項目を削除した方がよいか。

りゆ ちょんしる いいんちょう
(柳 晴実 委員長)

- ・ 両方の視点での対応が必要だと思う。
- ・ 多文化の視点を入れてヒアリングできるかどうかはすごく大事なので、ケアマネジャーの研修に外国人の視点を入れるのも一つの方法だと思う。
- ・ 一方で、実際に高齢者とやり取りするのは外国人介護士なので、その視点での対応も必要である。

すずき くりすちーな いいん
(鈴木 クリスチーナ 委員)

- ・ 外国人介護士労働センターや多文化ケアマネジャーセンターが、どこをサポートしていくか。そのプランがあって、何が外国籍の人に必要であるか、在宅介護の人の対応や食べ物の違いもあると思うので、そういった部分を考えるべきだと思う。

きむ えよん いいん
(金 愛蓮 委員)

- ・ 一番目と二番目を統合して、二番目の内容は大部分を省略する。
- ・ 三番目は鈴木委員が推している外国人高齢者の集いの場づくりだが、その内容について何か意見はあるか。

すずき くりすちーな いいん
(鈴木 クリスチーナ 委員)

- ・ 場所を作っても、高齢者が集まってくれるかは分からない。病気の予防や健康維持という観点もあるが、どのように提言するのがよいか。

きむ えよん いいん
(金 愛蓮 委員)

- ・ 今介護が必要な人も、今後必要になる人も、家族や知人がいない場合に、話をできる場があるとよい。
- ・ 川崎市には、主に在日韓国人の高齢者が交流する「トラジ会」がある。
- ・ 年に何回かお年寄りが集まり、ご飯を一緒に作って食べながらいろいろな話をしている。素晴らしい取組だと思う。

すずき くいん
(鈴木 クリスチーナ 委員)

- ・ コーディネーターが、そういった取組のマネジメントをできないものか。

りゅう ちよんしる いいんちよう
(柳 晴実 委員長)

- ・ 役割として大きすぎるかもしれない。

きむ えよん いいん
(金 愛蓮 委員)

- ・ あまり広く考えず、既存のものを少し発展させる形でもよいと思う。
- ・ コーディネーターの認知度が上がった後で、そういった役割を担ってもらような形でもよいかもしれない。

りゅう ちよんしる いいんちよう
(柳 晴実 委員長)

- ・ 県域で考えたときに、高齢者が特定の場所に集まることは難しい。県への提言として、どのように出すか。市町村に働きかけてほしいという内容だと、真剣に検討してもらえない可能性がある。

きむ えよん いいん
(金 愛蓮 委員)

- ・ かながわ外国人すまいサポートセンターをもう一か所開設して、そこで県の事業として対応できないか。
- ・ 関内は相模原方面からは遠いので、例えば新百合ヶ丘などであれば、小田急線沿いなので、津久井からの人も町田経由で来ることができる。

りゅう ちよんしる いいんちよう
(柳 晴実 委員長)

- ・ すまいサポートセンターができる前に、提言を受けた県は、県内の外国人の居住支援のネットワークづくりをした。
- ・ そこに産業界、行政、NPO、NGO などが入って、何が必要なのか、どのように進めていくべきかを会議で話し合った。
- ・ その結果として、相談窓口はすまいサポートセンターが担うこととなり、多言語資料が必要なので作成する、といった形で続いてきている。
- ・ そういう意味で言うと、県内の外国人高齢者に必要な支援内容を考えるネットワーク会議を神奈川県が設置する。そこで何が課題なのか話し合っ、何ができるのか多方面の方から意見を聞いて、作っていく方法もある。
- ・ ただ、YOKE などの取組の中で、既にその役割を担っているかもしれない。

きむ えよん いいん
(金 愛蓮 委員)

- ・ 実現まで何年かかったのか。

りゅ ちょんしる いいんちょう
(柳 晴実 委員長)

- ・ 提言が1998年で、すまいサポートセンターの設立が2001年なので、約3年である。

すずき いいん
(鈴木 クリスチーナ 委員)

- ・ そういうグループで一緒に取り組んでいかないと、実現したいイメージがあっても、具体的に何が問題なのか、何が必要なのかが分からない。
- ・ いろいろな分野の人を集めた中で話していけるとよい。私たちが考えているものが、もう作られている可能性もある。

きむ えよん いいん
(金 愛蓮 委員)

- ・ すまいサポートセンターも、提言があったからこそ実現したのであって、もしかしたら既存の取組があるかもしれないが、提言をすること自体は積極的に考えてよいと思う。

りゅ ちょんしる いいんちょう
(柳 晴実 委員長)

- ・ 3月に多文化高齢社会ネットかながわの調査結果が公表される。
- ・ その調査結果を受けて、神奈川県がどのような取組をしていくかということにつなげていかないといけない。
- ・ 県民会議として、この調査で判明した課題について話し合っていくネットワーク会議を設置してほしいという提言を出す、力が強まると思う。
- ・ 県で動ける部分で考えるとそういう枠組みで、いろいろな関係者、ケアマネジャーや教育機関なども入って話し合う場を設けるといえるところは、県だからこそ実現できる内容である。
- ・ そうした取組によって、支援する側の外国人高齢者に対する意識が強まり、それが本人に届くという形につながっていけば、ベストだと思う。

きむ えよん いいん
(金 愛蓮 委員)

- ・ 私たちが多文化高齢社会ネットかながわの資料を使うことは問題ないか。

りゅ ちょんしる いいんちょう
(柳 晴実 委員長)

- ・ 発表後であれば、参考資料として使用することは問題ないはずである。

きむ えよん いいん
(金 愛蓮 委員)

- ・ オープン会議は2月なので、その時点では使用できないのではないかと。

りゆ ちょんしる いいんちょう
(柳 晴実 委員長)

- ・ オープン会議では使用できないが、どういうことを提言しようと思っ
てい
るか言えればよい。県内の外国人高齢者への支援を 考
えるためのネットワ
ーク会議を立ち上げて、そこで話し合いをしてほしいということ。
・ そうすることで、外国人だけではなく、弱者への支援を 考
えていくよう
な視点が広がっていくとよいと思う。

きむ えよん いいん
(金 愛蓮 委員)

- ・ ハリロバ委員から、「支援ボランティアのための支援」というタイトルは
おかしいという意見があった。

(ハリロバ ナタリア 委員)

- ・ ボランティアは無償で人を助けるもので、この表現だと別の人がボラン
ティアを助けるという意味になってしまう。研修会でよいのではないか。

じむきょく
(事務局)

- ・ 「通訳ボランティアの支援」でよいのではないか。

きむ えよん いいん
(金 愛蓮 委員)

- ・ (2)は、ハリロバ委員からいただいた意見をもとに修正した。
・ (3)は、無償のボランティアでも、謝礼を少し見直すべきではないかと思
っている。

(ハリロバ ナタリア 委員)

- ・ オープン会議でお金のことを表に出すのはどうなのかという思いがある。

すずき
(鈴木 クリスチーナ 委員)

- ・ お金のことというよりも、現状を知ってもらうのはよいことだと思う。

きむ えよん いいん
(金 愛蓮 委員)

- ・ 当事者が何も言わないから、同じ謝礼ですべて対応している。兄弟が同
じ学校にいたら、兄弟二人の通訳をしても通訳料が1名分しか出ない。
・ 韓国人はあちこちに住んでいるが、希少言語だと、15分の通訳のために
片道2時間、往復で半日かかることもある。それで3,000円では、通訳が行
かなくなる。結局、通訳してもらえない子どもが一番可哀想である。
・ 当事者の意見を出して、きちんと説明したい。

りゆ ちょんしる いいんちょう
(柳 晴実 委員長)

- ・ ボランティアの善意に頼っていることが一番の問題で、通訳の仕事として補償されるべきということが基本にあると思う。
- ・ 例えボランティアでも、何千円でも謝礼を上乗せして、きちんとした仕事として認めてもらえるようにしてほしいということだと思ふ。

すずき いるいん
(鈴木 クリスチーナ 委員)

- ・ 学校では年間の予算に限りがある。

きむ えよん いいん
(金 愛蓮 委員)

- ・ 私が日本に来て初めてこういう活動をしたときは、神奈川県最低賃金が740円だった。最低賃金が上がるなら、謝礼も上げるのが当然だと思ふ。

いりるば なたりあ いいん
(ハリロバ ナタリア 委員)

- ・ (2)のChatGPTについて、AIという表現に変えた方がよいという意見があったが、削除する必要はないと思ふ。ChatGPTは、誰でも使用できる。

りゆ ちょんしる いいんちょう
(柳 晴実 委員長)

- ・ 「ChatGPTなどのAI技術」という表現にすればよいと思ふ。
- ・ (1)についても、MIC かながわ限定になっているが、外国人に関わるボランティア全体に対して、心理的ケアの必要性があると思ふ。
- ・ MIC かながわに限定せず、外国人の通訳ボランティアという形にして、研修に関する提言としてまとめてもよいと思ふ。

すずき いるいん
(鈴木 クリスチーナ 委員)

- ・ ブラジル領事館では、代表者会議がある。高齢になっている方は日本語の習得が難しいが、領事館が作成した冊子に年金制度や終活など、必要な情報がすべて記載されている。
- ・ また、ブラジルで一番有名な漫画を使って、日本の学校で学ぶ内容や、小学校の生活、準備すべきものについて分かりやすくまとめた冊子もある。

いりるば なたりあ いいん
(ハリロバ ナタリア 委員)

- ・ ブラジル政府がそういった取組に予算を出しているのか。

すずき いるいん
(鈴木 クリスチーナ 委員)

- ・ そうである。日本にいるブラジル人にもきちんと対応してくれている。

(金 愛蓮 委員)

- この冊子があっても、どこかに置いておかないと、日本に住んでいるブラジル人の手元に届かないのではないかな。

(鈴木 クリスチーナ 委員)

- ブラジル領事館は、各地域で情報提供を担うキーパーソンを登録している。キーパーソンはアンテナを張っていて、そこから情報が広がっていく。
- 前期の提言で触れられていたが、外国人起業家向けの起業支援のパンフレットもできている。

(リディア ワンタ 部会長)

- インドネシア人にとっては、学校の種類や制度が全く分からないので、こういった資料があると助かる。

(柳 晴実 委員長)

- 外国人当事者が関わって作成しているから、役立つものができる。当事者が作成時にどう関わっていくかという部分での影響は大きいと思う。

(ハリロバ ナタリア 委員)

- 各国で対応が違う。ロシア政府はロシア人が海外でくらししてほしいと考えているため、このようなサービスはない。

(金 愛蓮 委員)

- その話を提言のどこかに盛り込みたい。
- 例えば国際交流ラウンジで多言語のパンフレットを作成し、市の窓口において、住民登録するとき外国人に配布するという取組をしても、そのパンフレットが全然減らないという実態がある。

(柳 晴実 委員長)

- それは行政として、忘れずにやってもらわないといけないことである。

(金 愛蓮 委員)

- いろいろな情報があるので、当事者に届くようにしないとけない。

(柳 晴実 委員長)

- 市町村によっては、転入する外国人を多文化共生の部署に案内し、多言語の資料を提供したり、様式の記入を手伝うところもあると聞いた。

4 全体会議

- ・ 部会別協議の内容について、各部長から報告した。

柳 晴実 委員長

- ・ 各部会で話し合った内容をもとに、必要に応じてパワーポイントや資料を修正していただき、事務局へ送っていただければと思う。

事務局

- ・ オープン会議では、資料1のパワーポイントと資料2の提言素案を印刷し、両方参加者に配布する。スクリーンには資料1のみ投影する。
- ・ 資料の修正期限は、2月13日ということでお願いしたい。
- ・ オープン会議当日、会議の開始は15時30分だが、各委員にも会場設営等に御協力いただきたい。14時15分に、会議室にお越しいただきたい。
- ・ 現時点での参加申込みは6人だが、先週から広報を強化しているので、これからもう少し増えると思う。

柳 晴実 委員長

- ・ 当日の役割分担は、前回の会議で決定したが、それでよいか。

事務局

- ・ 役割分担をまとめたファイルをメールで送付する。

柳 晴実 委員長

- ・ 本日の会議後に、オープン会議のチラシが掲載されているページのURLを各委員に共有する。
- ・ 自分たちが作成している提言に関係していそうな人に、個別で声をかけていただきたい。たくさん意見をもらおうとまとめるのが大変かもしれないが、いろいろな意見を踏まえたうえで作っていくことが大事だと思う。
- ・ オープン会議まで慌ただしくなると思うが、全員でよいオープン会議にできたらと思っているので、よろしくお願いしたい。

(以上)